

上位の施策名称	施策Ⅱ-1-5 交通安全対策の推進
---------	----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通企画課長 早川正一	電話番号	0852-26-0110 (代)
----------	-------------	------	------------------

事務事業の名称	交通事故総量抑制事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	交通事故の実態に基づく交通安全対策や交通安全運動・交通安全教育・各種講習及び交通指導取締り等を通じた県民の交通安全意識の向上を図り、交通事故（特に人身交通事故）を防止する。	
事業概要	交通事故の総量を抑制するため、道路利用者に対し、交通事故の発生状況に応じた交通ルールの遵守事項等を周知し、交通安全意識の高揚と安全運転・安全行動の実践を図る。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	人身交通事故発生件数	目標値	1,280.0	1,230.0	1,190.0	1,150.0	件
	式・定義	同上	取組目標値					
			実績値	1,388.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	353,968	357,980
うち一般財源 (千円)	23,043	23,504

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成28年6月26日現在の交通事故発生状況は、次のとおりであり、発生件数・死者数・負傷者数ともに減少傾向で推移している。  
 発生件数 606件（前年比-80件）  
 死者数 13人（前年比-3人）  
 負傷者数 710人（前年比-81人）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

交通事故の総量（物損事故を除く。）は、平成22年以降6年連続で減少しており、平成27年中の交通事故発生件数は1388件と前年比で-195件となり、本年も減少傾向で推移している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」  
交通事故死者に占める高齢者死者の割合が依然として高く、高齢者死者数は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいで推移し、平成28年6月26日現在の高齢者死者数は9人と全交通事故死者数の6割以上を占めるなど、全交通事故死者数減少の阻害要因となっている。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
交通事故死者数は13人と抑止目標の半数を超えており、高齢者死者9人中、歩行者が3人、自動車運転中4人、国道・県道において8人が被害に遭っていることから、これら特徴を踏まえた対策を継続していく必要がある。
- ③原因を解消するための「課題」  
高齢者死者数が依然として多く、発生原因を踏まえ  
 ・横断歩行中の事故防止対策（特に夕暮れから夜間）  
 ・高齢運転者の事故防止対策（特に昼間）  
 をバランス良く推進していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

高齢者の交通事故を防止し、交通事故の総量を抑制するため、次の方向で交通事故防止対策に取り組む必要がある。  
 ・横断歩行中の事故防止対策～高齢者の横断歩行中の交通事故は、夕暮れから夜間に掛けて多く発生することから、昨年より推進している夜光反射材着用推進リーダー「キラリ推進隊」の活動を効果的に実施するとともに、高齢者交通安全アドバイザーによるワンポイントアドバイス活動、新歩行環境シミュレータを活用した参加・体験型交通安全講習会の開催、運転免許未取得で講習機会の少ない方に情報発信するための高齢者交通安全個別訪問指導の推進等を継続実施  
 ・高齢運転者の交通事故防止～高齢運転者は、平成24年以降10万人を超え、今後益々増加していく状況にあり、加齢による身体機能の低下に伴い、交通事故の増加が懸念されることから、運転適性検査機器を搭載した「ご長寿交通安全号」を活用した交通安全講習を実施するほか、しまね安全ドライブコンテストへの参加促進、運転免許証の自主返納された方への支援制度の拡充促進等を継続実施

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

交通事故総量抑制を図るためには、高齢者の交通事故防止対策を推進し、高齢者が関係する交通事故を防止することが重要である。過去5年間の高齢者歩行者及び自転車乗用中死傷者674人中、運転免許未取得者は514人と76.3%を占めることから、特に交通安全講習を受ける機会の少ない、歩行・自転車を交通手段とする高齢者の交通事故防止を図る必要があり、現在推進している高齢者交通安全個別訪問指導、高齢者交通安全アドバイザーによる高齢者が集まる場所でのワンポイントアドバイス活動を引き続き推進する必要がある。